

鶏肉情勢

令和4年11月8日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和4年9月末実施)によると、9月の推計実績は処理羽数59,475千羽(前年比100.0%)・処理重量176.2千ト(同99.2%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は1.5%下方修正され、処理重量は前月時点の計画値を0.9%下方修正された結果となった。このことより、生産状況は概ね順調であり、夏場の暑さが和らいだことで食餌量も戻りつつあることが伺える。また、9月の出荷について前月時点の計画値からの下げ幅が処理重量に比べ処理羽数の方が大きいことから、成育も順調であったことが伺える。 (2) 10月の処理羽数・処理重量はともに前年をわずかに下回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数は関東地区と中部地区で処理重量は関東地区と中部地区と近畿・中国・四国地区で前年を上回っているが、他地区では処理羽数・処理重量とも前年を下回っている。10月末に鳥インフルエンザの農場での発生が岡山県で初めて確認され、続けて北海道・香川県・茨城県でも発生が確認されている。今年は夏場も欧州での発生が相次いでいるため、今冬は国内にもかなり多くの渡り鳥がウィルスを保有して飛来すると予測され、各地への広がりが懸念される。また、工場の人員不足は引き続き厳しい状況が続いており、加工品(切り身・手羽中ニツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くと思われる。
	2. 輸入 (1) 財務省10月28日公表の貿易統計によると令和4年9月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲0.6千トの46.8千トで、国別ではブラジルが▲1.5千ト、タイが+0.8千トとなっている。前年同月の実績に対しては1.6千ト増となった。生産量が回復したタイの輸入量が戻り欧州からの引合いが強まっているブラジル産が減少となった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、10月が50.2千ト(前年比98.0%)、11月が49.2千ト(前年比85.1%)となっている。9月実績は前月輸入量より減少、10月に比べ増加が予想される。価格は円安状況のなかではあるが下降傾向となっている。要因としては、引き続き外部冷蔵庫の入庫状況が厳しいなかで一部在庫消化に動き出している業者があることや、先々の入船において現地価格が下がっていることが考えられる。今後、生産量が増加するに伴い現地での価格も下がっていく予想もあるが一方で鳥インフルエンザの影響により市場価格が上がってくるのではとの話も聞こえている。今後の動向に注視したい。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲3.5千トの44.3千トで、国別では中国が▲2.0千ト、タイが▲1.3千トとなった。前年同月の実績に対しては+12.5千トとなった。前月比は下回ったが前年比は大きく上回る結果となった。タイの生産が回復し、国内向けオファーは増加している。ただし為替の影響により価格帯は現状の水準である、今後も製造量の増加と為替のバランスにより価格への影響が考えられる。外食については新型コロナウイルス流行前に比べれば回復しきっていない部分もあるが徐々に回復傾向、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。今後の動向に注視したい。 (3) 財務省が10月28日に公表した貿易統計によると9月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より81.6%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より30.4%上昇した。依然として、世界的なコストアップや為替相場の円安により高値が継続、国別ではブラジル産の価格が405円/kg(前月比21円高)、タイ産が488円/kg(同20円高)となっている(国別平均価格)。ブラジル産はコスト高や円安の影響はあるが在庫状況などにより先々の価格が下がってきている話も聞こえ、国内市場価格も徐々に下がり基調となってきた。タイ産については生産回復の影響により製造量が増加しており、市場価格への影響が考えられる。今後の国産鶏肉への影響に注視したい。
需要	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和4年9月の生鮮肉消費(購入)は数量4,307g(前年比100.5%)・金額6,335円(同99.1%)と、数量は前年を上回ったが、金額は下回った。鶏肉は数量1,492g(同96.5%)・金額1,386円(同100.2%)・単価92.9円/100g(前年同月+3.4円)と、数量は前年を下回ったものの、金額・単価は上回る結果となった。調理食品が金額11,576円(同100.7%)、外食が13,185円(同133.0%)となっている。相次ぐ食品の値上げや、行動制限がなくイベントや行楽が再開されたことで、家庭内食品需要の低下がみられる。外食においては、新型コロナ第7波が峠を越え、秋の行楽シーズンに入り、旅行・レジャーを楽しんだ人が多かったとみられ、外食に行く機会が増えたと考えられる。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和4年9月の食品売上高は全店ベースで前年比98.9%と前年を下回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同96.4%、既存店ベースは同95.0%となった。また、畜産部門の売上高は約1,129.1億円で全店ベース同99.0%、既存店ベース同97.4%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、行動制限がなく、イベントや行楽が再開されたことで、家庭内食品需要の低下傾向が続いている。さらに相次ぐ値上げや報道による食品支出の冷え込みも警戒され、スーパーマーケットにとって厳しい市場環境が続いているとのこと。畜産部門においては、前年緊急事態宣言下からの反動による家庭内食品需要の低迷や、外食機会の増加などにより不調となっている。前年と比べて内食需要が低下したことや値上げの影響で加工品が低迷しているほか、外食機会の増加により買上点数減となった店舗が多くなった。相場高騰が続かなかつて積極的な販促が行えないとのコメントがみられた。牛肉は連休の天候不順の影響を受けた店舗が多く、国産、輸入共に不振、豚肉は国産が価格高騰で不振、安価な鶏肉は比較的動きがよかったとのこと。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和4年9月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比97.1%の4.4千トとなった。うち国内品は同108.8%の3.8千トと前年を上回り、輸入品については同59.1%の0.6千トと前年を下回った。
在庫	1. 令和4年9月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産25.8千ト(前年比76.5%・前月差▲2.7千ト)、輸入品121.2千ト(同112.7%・同▲0.0千ト)と合計で147.1千ト(同104.0%・同▲2.7千ト)となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表(令和4年10月27日更新)では、9月の出荷り量は国産134.6千ト(前年比97.7%・前月差+1.2千ト)、輸入品47.5千ト(同96.8%・同+0.2千ト)と合計で182.1千ト(同97.5%・同+1.4千ト)となった。10月以降の国産在庫については、競合する輸入鶏肉の高騰等から引き合いが強く、引き続き在庫は減少していくと予想する。輸入鶏肉の入荷量は前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように、10月は国内営業冷蔵庫が満庫の状態のため前年をやや下回る見通しであり、11月は例年、需要期に向けて輸入量が増加する時期となるものの、米国産は鳥インフルエンザの影響により不安定な輸入状況が続く可能性があることや、ブラジル産は前年の輸入量が多かったことから前年を下回る見通しである。10月・11月の出荷り量が前年同月を下回ると予測されていることや、前年在庫が少なかったため、期末在庫は10月・11月とも前年を上回ると予測する。
相場	1. 令和4年10月動向 (1) 令和4年10月の月平均相場は、モモ肉697円/kg(前月差+30円)・ムネ肉376円/kg(同+12円)正肉合計で1,073円/2kgと前月を42円上回り、前年同月を142円上回った。モモ肉相場は月初683円、月末は706円となった(昨年は月初591円、月末611円で16円の上げ)。昨年の相場より大幅に上回り、3か月連続で正肉価格が1,000円を超えた。依然として相場高騰する畜産の中では比較的安価な鶏肉に消費者の需要があり、暑さも和らぎ売り場も切り替えられ販売も順調に推移し品薄状態は続いている。また、九州での台風の影響により供給量が減少し需給が締まったと思われる。ムネ肉相場は、輸入品価格の高騰等から加工向けの引き合いが依然強く、前月から12円の上げとなった。供給量が減少する中、加工メーカーとの定期取引等から在庫量自体が薄く、鍋食材のつみれ・だんごの材料として使用されるため年内は品薄がつづくと思われ、価格も高水準で推移していくと思われる。
	2. 見通し (1) 11月の生産量は、前年より若干下回る計画である。しかし、現時点で高病原性鳥インフルエンザの発生が今季国内6例目まで報告されており、直近及び12月以降への影響が考えられ、今後も拡大する懸念がある。需要面では、気象庁発表の「向こう1か月の天候の見通し(11月)」によると、11月上旬は平年並みか平年よりも高く、下旬は平年並みか平年並みより低い予測となっている。量販店は鍋シーズンに入り鶏肉は順調に推移していくと思われる。外食産業についても回復傾向にあると思われる。輸入品の価格は下げ基調であるが、国内品についてはタイトな状況が続き、価格も高水準で推移するものと思われる。以上から、生鮮品及び凍結品ともに需要が高く、供給面でも引き続き不足が予想されるのでモモ肉相場は上げの月平均720円、ムネ肉相場もタイトであり、月平均380円と予測する。 (2) 直近の販売状況は、朝晩の冷え込みが強まっており、鍋物シーンが本格化し、生鮮品については順調に推移している。最需要期である年末に向け需要は増大に向かうであろう。凍結品も依然として品薄状況は続き、高水準の価格で推移している。10月末より国内で鳥インフルエンザの発生が確認されており、11月・12月の供給量の低下が予測される。欧州で夏の間も感染が相次いでいたことから、日本国内でも昨シーズン以上の感染増が懸念されている。様々な料金や食品の値上げが相次ぐ中、他の畜種と比較すれば比較的安価な鶏肉に需要がシフトしていくと考えられ、また、鳥インフルエンザの影響で供給量が低下することが予測されることから、鶏肉の需給はタイトに推移していくと思われる。

実績

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R4年9月推計実績		R4年10月計画		R4年11月計画		R4年12月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	66,866	101.8%	68,579	97.4%	63,842	101.1%	69,461	99.2%
処理羽数	59,475	100.0%	62,911	99.5%	63,115	100.2%	67,952	100.4%
処理重量	176.2	99.2%	187.9	99.0%	189.8	98.4%	204.8	98.8%

※参考資料:〔備全国食鳥新聞社発行「PMN」〕

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年4月	43.6	50.2	86.9	44.1	45.8	96.3	87.7	96.0	91.4	49.7	50.3
R4年5月	42.5	46.2	91.9	42.1	36.0	117.1	84.6	82.2	102.9	50.2	49.8
R4年6月	52.2	42.8	121.9	46.2	40.5	114.2	98.4	83.3	118.1	53.0	47.0
R4年7月	45.6	44.8	101.9	43.8	43.9	99.9	89.4	88.6	100.9	51.0	49.0
R4年8月	47.4	46.9	100.9	47.8	44.1	108.5	95.2	91.0	104.6	49.8	50.2
R4年9月	46.8	45.2	103.5	44.3	31.8	139.2	91.1	77.0	118.3	51.4	48.6

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9
R4年4月	1,512	1,556	97.2	1,368	1,384	98.8
R4年5月	1,476	1,527	96.7	1,403	1,426	98.4
R4年6月	1,433	1,461	98.1	1,375	1,328	103.5
R4年7月	1,439	1,440	99.9	1,345	1,265	106.3
R4年8月	1,372	1,449	94.7	1,309	1,341	97.6
R4年9月	1,492	1,546	96.5	1,386	1,383	100.2

※参考資料:総務省統計局HP「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」

相場(年別・暦年)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年4月	31.3	31.7	99.0	116.3	129.8	89.6	147.6	161.4	91.5
R4年5月	31.2	32.8	95.1	115.7	129.4	89.4	146.9	162.2	90.6
R4年6月	30.5	34.1	89.4	119.1	121.7	97.8	149.6	155.8	96.0
R4年7月	28.9	34.5	83.6	121.1	113.7	106.5	150.0	148.3	101.2
R4年8月	28.5	34.9	81.7	121.2	111.4	108.8	149.7	146.3	102.3
R4年9月	25.8	33.8	76.5	121.2	107.6	112.7	147.1	141.4	104.0

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年6月	624	631	98.9	326	296	110.1	950	927	102.5
R4年7月	637	600	106.2	340	301	113.0	977	901	108.4
R4年8月	649	583	111.3	354	308	114.9	1,003	891	112.6
R4年9月	667	580	115.0	364	316	115.2	1,031	896	115.1
R4年10月	697	603	115.6	376	328	114.6	1,073	931	115.3
R4年11月	(720)	619	116.3	(380)	333	114.1	(1,100)	952	115.5
R4年12月	(730)	641	113.9	(380)	340	111.8	(1,110)	981	113.1

※()は見通し